

# 「振り返り」のアイテム 「R80」を使ってみましょう！

「アクティブ・ラーニング」の「振り返り」として考案した「R80」は、あらゆる場面で活用が可能なアイテムです。

茨城県立並木中等教育学校校長

中島 博司

なかじま ひろし 子どもたちの未来のために「アクティブ・ラーニング」を広める努力をしています。座右の銘は「一所懸命の地」です。

二〇一五年四月、校長になった私は、三つのテーマで研究を始めました。「アクティブ・ラーニング」と「二つの新テスト」と「次期学習指導要領」です。特に「アクティブ・ラーニング」(以下、AL)については、現在、各地で研修会講師もつとめています。

ALに関する研究の過程で、二〇一六年当初、四つの課題が出てきました。それは、①AL型授業が形だけになってはいないか、②アクティブラーナー(能動

的学習者)の育成という目的に向かっていくか、③ALか講義かという二項対立的な議論になっていないか、④ペアワークやグループワークだけで学力は向上するのか、です。

特に、四つ目の「学力向上」にかかわる課題は最も重要であり、このことがクリアされなければ、ALの明日はないとさえ感じていました。そして、二〇一六年五月に「R80」(アールエイティ)を考案するに至ったのです。

「R80」とは何か

「R80」のRは「リフレクション(振り返り)」と「リストラクチャー(再構築)」のRです。80は、自分で八〇字以内の文章を書くという意味の80です。具体的には、ALの最後に「振り返り」として、ペアやグループで話し合ったことなどを「再構築」して八〇字以内で書きます。

その際、必ず二文で書き、その二文を接続詞で結ぶのが特徴であり、そのことによって「思考力・判断力・表現力」に加えて、「論理力」も育成し、学力向上につなげようと考えました。

さらに、この「R80」は、二〇二〇年度から大学入試センター試験に代わって始まる「大学入学共通テスト」の記述式問題にも対応しているのです。

生徒の書いた「R80」

実際に前期生(中学生)が書いた「R80」を紹介します。まず、四年次生(高一)が二年次生(中二)に数学を教える

という「縦割りのペアワーク」の際に、二年次生が書いたものです。

実力テストでは、自力で解けない問題がたくさんあり、見直してもよく理解できなかつた。でも、今回先輩と一緒に考えることで、難しい問題を理解できたので、感動した。

次に、二年次の家庭科の授業での「R80」です。

私は、あまり添加物を取らない方が良いと思ったので②にします。なぜなら、いくら添加物が入っている物が安いからといって決して安全性が高いとは言えないからです。

二〇一五年度からALを推進している本校では、今や「R80」は普通の授業アイテムになっており、授業終了前三分程度で生徒たちは書いています。用紙も次ページに紹介したプロトタイプではなく、授業プリントの最後に八〇文字のマスがあれば、「R80」と認識できています。さらに、授業だけでなく、学校行事の「振り返り」にも活用されています。

次の例は、三年次生(中三)の「筑波大学見学会」の後の「R80」です。

大学では、文理に拘わらずに様々な視点から学ぶことが必要だと思った。なぜなら、どの分野の研究も、その分野単体で考えるのではなく、様々な要素を含んでいるからである。

「R80」は多方面で応用可能

.....

ALを学力向上につなげるために考案した「R80」でしたが、「振り返り」のアイテムとして、多方面で使えることがわかってきました。

小学校の校長先生からは、一年生でも「つなぎ言葉」を使って実施できるということを知っています。

また、就職希望者の多い高校では、「R80」によって生徒たちが自信を持って文章が書けるようになり、喜んでいう報告もいただいています。四〇〇字の作文も、「R80」×五で書けるようになってきました。

さらに、「ビジネス界」でも使えるという話を聞きました。最近の若者は、論理的な文章が書けなくて困っていたが、「R80」で訓練できるということでした。

今回、本誌に書かせていただくことになりましたが、「構成的グループエンカウンター」の「振り返り」に活用できそうですし、「教育相談」の場面でも応用ができそうです。

最後に、エピソードを一つ紹介します。ある学校の教員研修会で実際に「R80」を書いてもらったところ、三分間だと半数の先生が書き終わりませんでした。しかし、別の研修会で、ペアワークを一分間した後に三分間で書いてもらうと、見事に全員が書けました。「アウトプット」した直後に「書く」と、自分の考えが「再構築」されて書けるのだと確信しました。AL効果です。

\*

私は、「主体的・対話的で深い学び」であるALの目的は、アクティブラーナー(能動的学習者)の育成だと考えています。そして、AI(人工知能)等の発達により、大きく変化する近未来にあっても、アクティブラーナーならば、たくましく生きていけると信じています。そのため、ALを広める努力を継続していきたいと思えます。

R80 (アールエイティー)

年組		番		氏名	
----	--	---	--	----	--

課題・ タイトル																
																20
																40
																60
																80

下書き																
																20
																40
																60
																80
																100

FREE①															
-------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

FREE②															
-------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

R80に関する解説	
基本事項	R80の読み方は「アールエイティー」です。 Rは、リフレクション (reflection) と、リストラクチャー (restructure) のRです。 80は、80字以内で書くという意味の80です。
基本的な 使用法	①アクティブ・ラーニング (AL) の最後に、リフレクション (振り返り) として、ペアやグループで話し合ったことを、自分でリストラクチャー (再構築) して、80字以内で書きます。 ②必ず、2文 (2センテンス) で書き、2文を接続詞で結びます。 ③下書き欄やFREE欄の使い方については、先生の指示を受けてください。
使用する 接続詞の例	●順接 (したがって、ゆえに、だから) ●逆接 (しかし、だが、ところが) ●並列 (また、ならびに、かつ) ●対比 (一方) ●換言 (つまり、すなわち) ●理由説明 (なぜなら) 他

\*この「R80」の用紙は、茨城県立並木中等教育学校のホームページ上にある「AL宝箱」の中に、エクセルファイルとPDFで入っています。ご自由にお使いください。